

シンガポール留学報告

福島県立医科大学医学部 5年 白石裕紀子

私は 2015 年 2 月 12 日から 3 月 20 日までの 5 週間、シンガポール国立大学微生物学教授の山本直樹先生の研究室で基礎研究を学びました。研究に加えシンガポールで学んだこと感じたことについて報告します。

研究について

研究室ではインフルエンザウイルスを使用して抗ウイルス剤候補のスクリーニングシステムの構築を行いました。最初の 1 週間はただひたすらに研究室のやり方と自分が何を管理しなければならないのかを学びました。担当して下さいた市山先生は必要なことをきちんと教えて下さり、手取り足取り過ぎない指導をして下さったので、自分だけでできることが増えていく喜びを感じることができました。まだ研究のけの字もわかっていないことは承知の上で、5 週間集中して研究に臨めたことは幸せなことでした。

研究室には山本教授、市山先生、大庭先生の日本人 3 人、卒業研究中のシンガポール人学生 3 人、マレーシア人の研究員、インド人の研究員がおりました。研究室は 2015 年 3 月末に閉まるとのことで皆忙しそうでしたが、市山先生と学生 3 人とは特に沢山関わることができました

毎週火曜日と金曜日の午前中に研究室内の研究報告会があり、毎回 1~3 人が発表しました。私も 2 回の機会を得て、英語で発表しました。最初は福島での生活について、2 回目は帰国する日に自分の 5 週間の研究について話しました。最初の発表の際は終了した後に質問をもらうことができませんでした。個人的には多くの方から福島について質問されました。福島についてシンガポールでも関心は持たれているようですが、発表の場で強く興味を引くことは難しいことでした。個人的にされた質問としては、福島には住めるのか、北海道以外は危ないというのは本当なのか、日本人は何故地震の多い危険な土地に住み続けるのか、などでした。私は福島には沢山の人が住んでいること、まだ線量が高く住むことができない土地があること、身体に影響を与える要因は放射線の他にも沢山あるためどこまでが危険でどこまでが安全と線引きをすることが難しいこと、そして人が住む土地を変えることはそんなに単純なことではないことを話しました。



シンガポール留学報告

福島県立医科大学医学部 5 年 白石裕紀子

シンガポール国立大学

シンガポール国立大学(NUS)は学内を多数の無料バスが走行しているような巨大な大学です。同じ研究室の学生が腫瘍生物学の授業に出席するというのでついて行きました。内容は非常に興味深かったのですが、当たり前ですが英語での授業の為にすでに知っている分野の内容しか正しく理解できませんでした。通常の講義のほかに学生や院生、教職員を対象とした様々な分野の演説会が頻繁に行われていました。私は午前 7 時過ぎから朝食付きで行われた演説会に出席しました。その内容は専門的ではありましたが、様々な分野の人が理解できるようなかたちで説明されており、私も楽しむことができました。

大学内の至る所にある食堂は研究室以外の人と話せる良い機会でした。生物系以外の人と話したり、シンガポール外からの留学生と自分たちの国やシンガポールについて話したりする良い機会となりました。シンガポールの温暖な気候で自分の持病が治りそうだったから留学した子や自分の国では勉強できない分野を学ぶために留学したとっている子がいました。

言語

シンガポールでは英語が公用語です。多くの人は中国語と英語、マレーシア語と英語、ヒンディー語と英語と言ったように 2,3 の言語を使い分けています。彼らの話す英語は中国語やマレーシア語などのアジアの言語訛りがあり、加えてそのアジアの言語をそのまま取り入れた言葉も存在しています。シンガポール人はそれを Singlish と呼んで友人との間でよく使っています。シンガポール人が学校で学ぶのはイギリス英語で、極力綺麗な英語を話すように教育されるのだと教えてくれた子はとても聞き取りやすい英語を話していました。ただ訛っていることで同郷とわかりサービスされることがあるそうです。

私はその訛りの中に何とも言えない暖かさを感じていました。シンガポール人の中には日本の漫画やアニメやドラマで覚えた片言の日本語を話せる若者が結構いるのですが、英語での会話の中でふと片言の日本語に出会った時に感じるような暖かさをシンガポールの人々は English の中よりもむしろ Singlish の中に感じるのではないかと思いました。ですから私はあえて Singlish を使う人たちと会話する時は Singlish を学んで使ってみました。

言語に関しては英語が母国語の人とそうでない人とは会話をする際に少し違いがあると感じました。シンガポールの人ほどの国から来た人も皆とても流暢な英語を話すのですが、英語を第 2 言語としている人と話すときどうしてもお互い英語を道具として使っている感が拭えないようでした。英語を第 1 言語としている人と話すことは時には第 2 言語とする人と話すよりも早口だったり訛っていたりで難しいことがありましたが、彼らが本当に言いたいことを正しい表現で自分の言葉で伝えてきているのだということを強く感じました。

シンガポール留学報告

福島県立医科大学医学部 5年 白石裕紀子

社会

シンガポールは主に中国系、マレー系、インド系、ヨーロッパ系の主に4つに分かれるようです。人種間に差はないと中国系の人々は言っていましたが、やはり学歴からくる何某かの違いはあるようです。あるからこそ多民族国家としての政策をシンガポールは取っていると感じました。けれどもシンガポール人は学ぶ機会をある程度平等にもっているようです。

私が最も感じたのは知識があるとされる人と出稼ぎの人との境遇の差です。工事現場での仕事や清掃、警備などは殆どインド系の出稼ぎの人々が行っているようでした。またシンガポールの多くの共働きの家庭は家事や子供の面倒を見てくれる家政婦さんを雇っていました。日本では家政婦さんを雇っている家庭はとても裕福なイメージを持ちますが、シンガポールはインドネシアなどから出稼ぎの人を低賃金で雇えるため、特別なことではないそうです。私が知り合いのホームパーティーにお邪魔した際にお話した家政婦さんの Mさんは、インドネシア出身で家族のために出稼ぎにきており、今年、海の綺麗な祖国に帰るのだと嬉しそうに話していました。需要と供給があるからうまく成り立っているのだとは思いますが、生まれた国や時代や教育で大きな違いが生まれるのだと実感しました。都市国家が周辺諸国に与える影響は多大なものでした。



教育

シンガポールで私が話した学生は皆共通のある考えを強く持っていました。それは、「シンガポールは小さく何も無い。あるのは人と知恵だけだ。」というものです。ですから、シンガポール人学生は周辺諸国からの留学生ほどハングリー精神に溢れてはいませんが、高い教養を身に着けることに努力を惜しまないようでした。日本人学生と部活動で交流をしたシンガポール人の男子学生は、日本人の学生はしばしば勉強より部活を大事にするようだねと驚き、少し呆れているようでもありました。一方で将来の為という打算を持たずただ運動に打ち込む日本の文化を何らかのメディアを通して知って、羨ましがる人は多くいました。私が寮で知り合った中国人の子も似たことを言っていました。

教育に関しては、勉強以外の教育についても報告します。小学校の先生をしている女性とお話したのですが、その際彼女はシンガポールの子供たちが片付けや清掃といった当たり前のことを学ぶ機会がないことを嘆いていました。日本は公立ならば小・中・高等学校までは分担してすべての学内の清掃をします。シンガポールは小学校にさえ清掃員がいてどんどんきれいにしてくれるため、自分が何かを使ったり汚したりしても片付けを自分でする習慣はつかないそうです。私は自分で掃除する経験がないと掃除してくれる人への感謝の気持ちを持ち難いかなと思いました。しかし私のいた研究室の学生3人はきちんと自分の

シンガポール留学報告

福島県立医科大学医学部 5年 白石裕紀子

使った物の片付けをしていましたし、次に使う人への配慮も常にしていました。

観光

シンガポールは安全な国でした。建物の中や屋外の至る所に監視カメラがあります。良くも悪くも常に人々は監視されています。

私は新しい観光地でお金を使うよりも、シンガポールという小さなエリアで様々な文化を感じることを楽しみました。エネルギー溢るリトルインディア、賑やかなチャイナタウン、静かなプラナカンの街並み、個性的なアラブストリートなどは素晴らしかったです。多くの博物館は学生割引があり、1人でゆっくりしたり寮の友人と回ったりしました。新しい観光地は恋人たちや家族向けかと思います。

歴史

私は恥ずかしいことにシンガポールに留学することになるまで建国の父であるリークアンユーのことを知りませんでした。シンガポール国立博物館でシンガポールの英国植民地時代からの日本の占領時代について読みました。日本ではなかなかしっかりと学ぶ機会のない日本の歴史を他国視点で学ぶよい機会となりました。他国を知りたいときは自国をさらに知っておかねばならないと思いました。日本の占領の歴史を学ぶ姿勢を見せて初めて現地の子は戦争に関して思っていることを少し話してくれました。

最後にシンガポールでお世話になりました山本直樹教授を始めとする研究室の方々、他の階の研究室で活躍される日本人のみなさん、沢山面倒を見て下さりありがとうございました。多くの日本人がシンガポールで研究に励む姿を見て大きな力をいただきました。また、今回素晴らしい留学の機会を与えてくださった国分美和様、関根英治先生を始めとする福島県立医科大学の方々、本当にありがとうございました。この経験を糧としてこれからも学び続けます。

